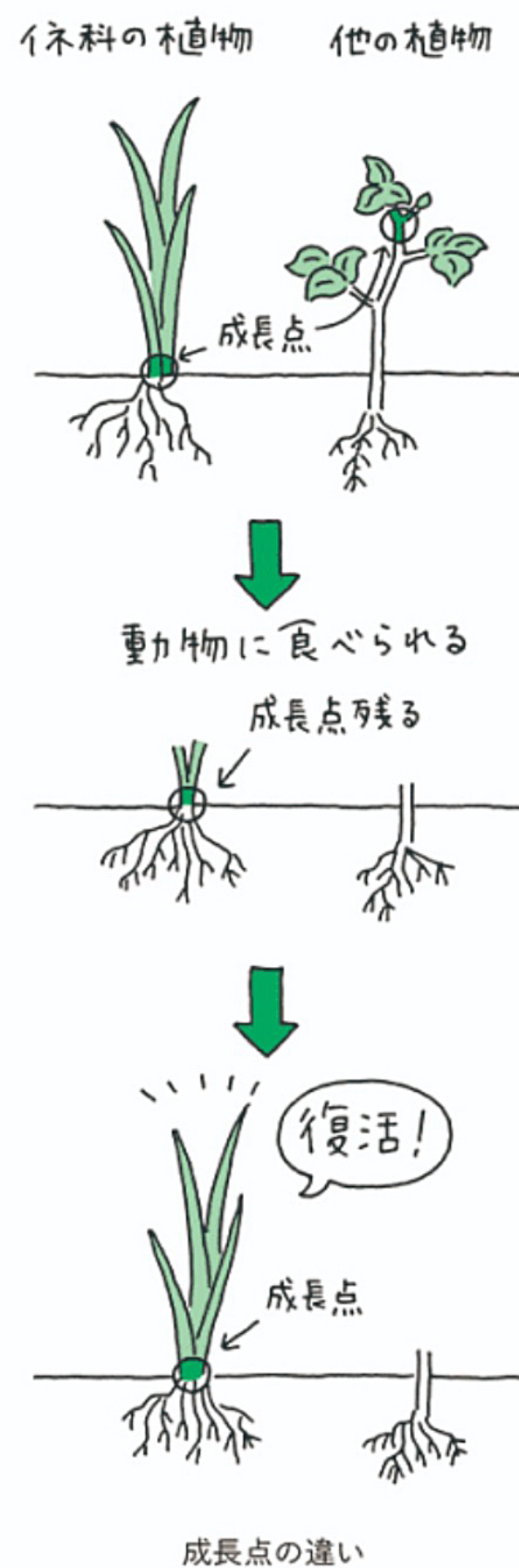


第5話 人類と単子葉植物の出会い



ばして穂をつけるのです。

どんなに食べられないように進化をしても、結局、草食動物は、イネ科植物を食べるような進化をしてしまいます。そこでイネ科植物は、**食べられても食べられても、滅びないという進化**を選んだのです。

公園やグラウンドの芝生はシバという植物が生えています。シバは、芝刈りをすればするほど、元気になります。

シバもイネ科植物です。

それでもまだ、イネ科植物にも作戦はあります。

作戦の三つ目は、じつに画期的な進化でした。それが、茎の成長点を低くするということです。

植物の茎の成長点は茎の先端にあります。この成長点で細胞分裂をしながら伸びていくのです。ところが、この方法では、茎の先端を食べられると大切な成長点を失ってしまうことになります。そこでイネ科植物は、茎をほとんど伸ばさずに、成長点を地面に近い低い位置に配置する進化を遂げました。そして、葉っぱだけを上へ上へと茂らせていくのです。

イネ科植物の画期的な作戦

これが、私たちが草むらを描くときのイメージです。

この方法であれば、いくら食べられても、葉っぱの先端を食べられるだけで、成長点が傷つくことはありません。そして、花を咲かせてタネをつける時期だけ、すばやく茎を伸